

時代の厚い層を肌で感じる 国史跡 建造物が物語る歴史

鶴岡市教育委員会主催の「国史跡 旧東田川郡役所及び郡会議事堂」未来へつなぐシンポジウム（7月30日開催）の第Ⅱ基調講演は、小幡知之氏（山形工科大学短期大学学校長）です。

小幡氏は、『「東田川文化記念館の建造物」建造物が物語る歴史』と題して講演しました。

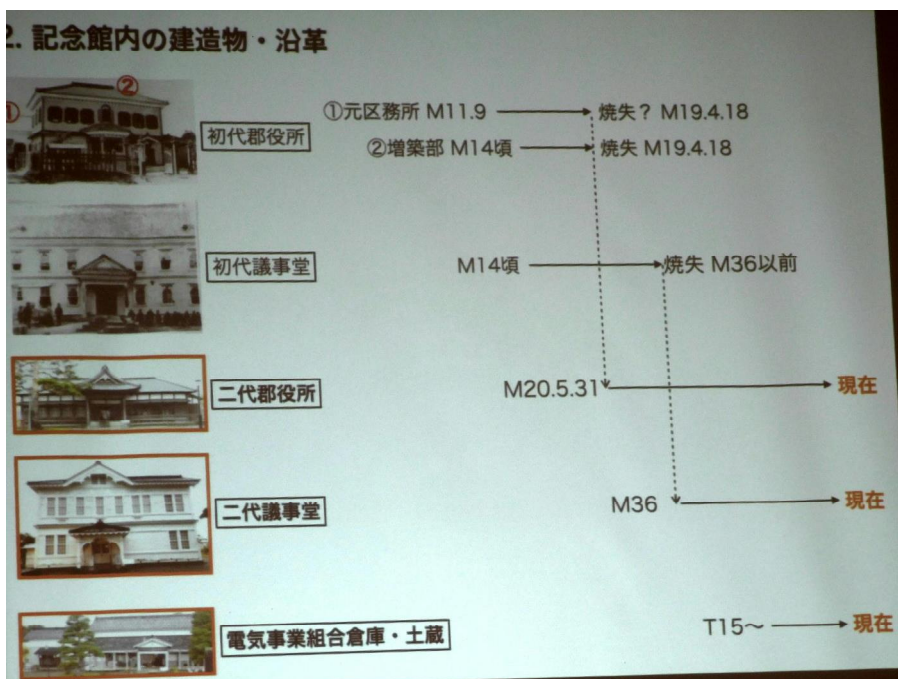
和風再認識の先取り
現存する建物は、建築年代が異なり、各時代を反映している。

初代東田川郡役所は、明治11年に第6大区「区務所」として計画されていたものを、郡役所に転用され、明治14年頃に増築。洋風の平屋建と推測。

明治19年4月18日に消失し、2代目郡役所が明治20年5月31日に落成。和風基調。



第Ⅱ基調講演の小幡知之氏（山形工科大学短期大学学校長）



2代目郡役所の棟梁は、旧狩川村役場庁舎と類似し、トラスの採用などから、高橋兼吉の可能性があるが、断定する根拠を欠く。

創建当初の位置にそのまま存在することが重要で、この場所が経てきた時代の厚い層を、肌で感じる事が出来る。

全国的に旧郡役所の数が減少し、現存しているのは全国で32棟。うち山形県5棟、福島県4棟、兵庫県4棟、島根県4棟で、他県は1~2棟と、山形県が最も多く残り、しかも年代が早いものが多い。

和風基調は現存6棟のみ。

明治建築の沿革をたどれば、明治10年代までは西洋建築が積極的

に摂取されたが、明治20年代に日本建築が再認識され、現存の2代目郡役所の和風基調は、建築界のやや先取りした取り組みである。

全国的には、旧郡会議事堂はそのほとんどが失われており、ここは明治から大正期にかけての郡の制度を明確に伝える貴重な建築物。電気事業組合の2棟は、歴史的価値を有し、今後「登録文化財」にすることが期待される。

ふるさと賛歌 1

鈴木重雄（八色木・昭2生96歳）

人は誰にも故郷（ふるさと）がある。私が生まれた頃は、長男が家を継ぎ、他は他所に出て行かなければならない。地元には働き場がないので、満州開拓義勇軍が兵隊が唯一の就職であったが、やがて終戦。次三男は職を求めて旅（東京）に出た。「田舎の貧乏暮らしより、旅の貧乏の方がましだ」と、親たちが言っていたのを覚えていた。

とに納得する。

村の先人から語り継がれたことや、私の子どもの頃見聞きしたことを、これまでも多く書いてきたが、まだ少々書き留めてみたい。

しかし、老いても深まった。老いることは人間の自然で、拒むことは出来ない。昔の友だちはすでに、話を聞くのもままならなくなってしまった。

今や東京は全人口の1割を超えている。旅に出た人たちは故郷を誇りにして暮らしている。

少子高齢化が進み、集落そのものも変わろうとしているが、先人が築いた八色木村が未来永劫にわたり栄え続けることを願う。

故国山水多清暉（故国の山水 清暉多し）

私は村で生まれ村で育ち、職場も町内であったので、全く井の中の蛙人間であるが、物心ついてから九十余年、余命幾ばくもないが、自分の体験したことや見聞きしたこと、老人クラブで何気なしに話していたことを、思いのまま書いてみようと思う。

日帰日帰猶未帰（帰らんといい、帰らんといい、猶未だ帰らず）

一夜夢乗皓鶴背（一夜夢に 皓鶴の背に乗り）

遠向明月峰頭飛（遠く 明月に向かひ峰頭を飛び）

村の起こり、行事など、特に戦後の日本は急速に変わった。

私たちの住む郷土は、自然に恵まれた土地で四季の移ろいがあり、そして先人が残した歴史がある。

ふるさとを離れて久しぶりに帰省した友人は、村の家並みの変化や、近代化された施設に驚く。

しかし、周囲の山々を眺めて、ここがやっぱりふるさとであることに驚く。



鶴岡公園内の土屋竹雨頭彰詩碑

県教委が「新採教員に1人で担任を持たせない」体制

山形県教育委員会は、2023年度から「新採教員に1人で担任を持たせない」体制を開始しました。

県内の小学校に配属される大卒の新規採用教員は、教科担任兼副担任として配置するか、学級担任を受け持つ場合には支援員を付けることとし、単独で担任を受け持たないことで、負担を軽減します。

背景には、「ブラック職場」と言われる学校現場と、学生の「教職離れ」があります。

教員採用倍率が低下

学校現場は、「過労死ライン」の月80時間を超える教員が多く存在しています。

県の採用5年目までの若手教員の退職者数は、17年度の13人から21年度は30人と2倍以上増加し、中でも精神疾患を理由とした退職

は20年度7人、21年度7人となっています。そのため、県の教員の採用倍率は13年の7・2倍から22年度には2・5倍に低下し、特に小学校は5・2倍から1・5倍にまで大きく落ち込んでいます。

新採教員の自殺

山形県の6月県議会予算特別委員会で、伊藤重成議員（自民・舟形）が、最上地方で昨年、新採教員の自殺があったことを明らかにしました。

希望を持って教職に就いた青年の夢を奪った学校現場はどうだったのか。

新庄市の比較的大きな小学校の3年担任で、市教委は病死として自殺を認めています。

「小中一貫」は

教師の長時間労働問題で、「働き方改革」のために、文科省は2015年度から学校の「取組調査報告」が実施されています。

しかし、正規の教員が不足のまま、業務は減らず、仕事は家に持ち込み、子どもたちや教師同士のコミュニケーションの時間が犠牲になっています。

鶴岡市の「小中一貫教育」は、学校現場に新たなリスクとならないか、検討が必要です。

東田川史跡物語

東田川史跡と私ー金唐革紙（きんからかわし）② 青山 崇

上田尚（たかし）写真左）は、1934年、京都市生、金唐紙研究所を設立、代表となる。



日本画家・後藤仁



金唐紙研究所を設立した上田尚



1985年 旧日本郵船小樽支店金唐革紙、数枚復元製作（1枚の大きさ・約90×180cm



「旧林家住宅（重文）」岡谷市（旧製品・復元品）

定保存技術者として金

唐革紙を復元、製作した。

また全国各地で展示会を開き普及に努めた。

彼ら年齢的に後藤が中心）によって輝きを増した作品は10件ほどであるが、明治から昭和初期のものを（旧製品、平成以降製作復元品（復元品）と注釈し、次のものを上げておく。

「旧鎮守府長官官舎（重文）」呉市（旧製品・復元品）。

「孫文記念館（重文）」神戸市（旧製品・復元品）。

品。

「旧第五十九銀行本店本館（青森銀行記念館（重文）」弘前市（旧製品のみ）。

「旧沼田貯蓄銀行（県指定重文）」沼田市（旧製品）。

「旧林家住宅（重文）」岡谷市（旧製品・復元品）。

写真右は住宅の内部写真であるが、畳敷以外の三方は全て金唐革紙で飾られている。林家は生糸生産で財をなした。

ていたのだろうか・と。

▲実は、このJREという会社は、三瀬の矢引と加茂にも風力発電施設を作りたいと計画

中との事。先日、加茂に市長などが出向き、地元の見解を聞く会を開いたとの事。それは、風車を誘致したい住民が調査継続を求めた請願が市議会を通ったので、会社に中止を申し入れた市の説明の為。

▲市長は、加茂の東側山の頂に風車を立てれば、それを越えたところにある大山の上池・下池がラムサール条約の指定した野鳥の飛来地である事を理由に、風車建設は認めないというもの。だから調査は不要の立場なのだ。

▲市長からすれば、八森山でクマタカが風車にぶつかったとなれば、心配が的中という処。バードストライクを早く知っていれば、加茂の方々も納得したのかも。（石川）



クマタカの死

希少な猛禽類であるクマタカの死骸が、八森山にある風力発電施設付近で見つかったと、8月3日の山新に出ていた。見つけたのは6月24日だというのが、市への報告は7月28日と一ヶ月も過ぎてからなのだという。何でこんなにも時間を要したのか不思議だが？

▲八森山には、高さ140mの風車5基が一年の11月から稼働しているというが、絶滅危惧種に指定されているクマタカが近くで営巣しているのを知りながら、何故風車は建設されたのだろうか。風車を整備したJREという東京の会社は、クマタカの営巣を知っていたから、ブレードの一部を赤く塗ったと新聞には出ていたのだから、地元住民との説明では、どんな話になっ